



NPO 法人
茨城県防災士ネットワークだより

発行日 平成24年 12月吉日

発行元 特定非営利活動法人

茨城県防災士ネットワーク

発行者 理事長 西村 正夫

責任者 機関紙委員長 高橋 茂

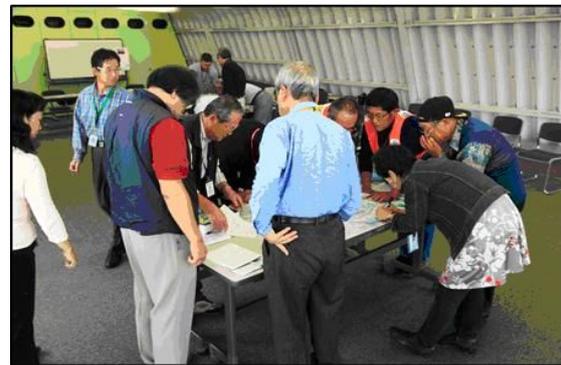
1. 県南西エリアDIG 研修会報告

去る10月14日、県南西エリア主催による DIG 研修会が小貝川堤防脇の県南総合防災センターにおいて実施された。研修には、県南西エリアの会員の他、近傍の会員も数名参加し総勢21名と大盛況であった。DIG の研修概要は、昭和25年8月に当県に相次いで来襲した2つの台風により小貝川が決壊したために被災した、取手町及び藤代町(現在の取手市)における大規模水害を想定し、現在の同一場所における被災状況を推測しその結果に対して議論並びに検討を行うといった内容であった。

今回の研修で、小貝川護岸の決壊は小貝川単独のものでは無く、利根川との合流場所近くで且つ利根川の川幅の狭い場所(利根町栄橋付近)で起きていたことや、隣接する龍ヶ崎市との地形の関係で決壊した時の被災状況が変わる等、いくつかの特徴があることがわかった。これらのことを踏まえて今後の非難方法について討論が行われた。



現在の地図グループ



古い地図グループ

熱心に行われた DIG 研修風景

なお終了後は、県南西エリアの意見交換会も合わせて実施された。

以下、意見交換会で出された意見・要望について報告します。主な意見としては、「もっと会員相互の情報共有が必要」、「本部ホームページへの掲載方法の検討」、「会員活動において一部の人に負担がかからぬように配慮が必要」等、建設的な意見要望が活発に出された。今後の会運営に反映させたい。



意見交換会



参加者全員の記念撮影

なお、参加者は以下のとおり。(敬称略、順不同)

根岸 毅、神郡正光、永倉喜代、猪塚光彦、坂 正巳、渡邊健一、澤邊 薫、鳥越俊輔、藤井 仁、高橋義一、安東正好、石井 功、中村義則、田中 寿、長谷川正、斉藤友孝、川村玲子、中村 隆野村 彰、西村正夫、高橋 茂。

2. いばらき防災大学におけるDIG 研修会指導報告

平成24年度いばらき防災大学は9月1日から開講され、これまでに3回の研修が行われてきた。第4回の研修においては、過去の防災大学には無かったDIG (Disaster Imagination Game: 災害図上訓練) 研修が加わった。これは東日本大震災を踏まえて、より実情に近い研修内容を試みようとする茨城県としての姿勢と思われる。

本DIGの推進に当たっては当ネットワークに講師の依頼があったので、これまでに研修実績のある県南西エリアの会員を中心として、計画から材料手配、県との事前打合せ、本番での指導まですべて遂行していただいた。

研修は11月4日、小美玉市美野里公民館において防災大学の受講生120名が参加して行われた。当ネットワークの会員13名が講師並びにコーディネーターとなり、昭和61年に茨城県に襲来した台風10号により決壊した小貝川流域における被害状況を基に実施した。約3時間の短い研修であったがほとんどの受講生が初めての経験とのことであったが、活発な討議が交わされ充実した研修となった。

研修終了後、研修生から「参加してとても良かった」と言った多くの声や、主催者である茨城県防災・危機管理課の担当主任からも「有意義な研修で大変助かりました。ありがとうございました」との御礼の言葉をいただいた。

今回、遂行いただいた皆さんは以下のとおり。(敬称略、順不同)

根岸 毅、神郡正光、永倉喜代、福島末輝、中村 隆、中村義徳、田中 寿、渡邊健一、澤邊 薫、石井 功、関根正彦、黒田一男、志村謙一、益子さや子、西村正夫、高橋 茂。

DIGの実際の模様を以下に掲載します。



(写真提供：高橋 茂)

3. 第4回・理事会報告

H24年度第4回理事会が去る11月4日、小美玉市美野里公民館にて開催された。最初に、前回の理事会以降に実施された各種講演会や研修会の状況について各理事より報告された。

続いて、以下の議題について審議した。

- (1) 今後の活動における各エリアからの提案
- (2) 独自ジャケット並びにイベント用のぼり旗の製作について
- (3) 今年度に予定されている防災講演会、研修会、訓練参加に対する日程と担当者の確認

(4) 講演会用参考資料の配布について

(5) 新会員の承認について

(6) 本部主催、北関東支部連絡協議会共催の研修会参加応募状況について
審議の内容と結果については

(1) は、各エリアの提案について原則承認された。

(2) は、エリア毎に独自ジャケット10着、のぼり旗2本購入・配布することで決定。

(3) は、提案された案について原則承認された。未決案件については、随時連携を取り合って決定することで承された。

(4) は、これまでに使用された講演資料の一部をまとめたファイル一式を各エリアの理事に配布した。エリア内で今後の講演に活用されたい。

(5) は、守谷市在住の川村玲子氏が承認されたので今後よろしくお願ひします。

(6) は、群馬県前橋市消防本部のご協力を得て、日本防災士会本部としての研修会である。当ネットワークからの応募者は、斎藤友孝氏、藤井 仁氏、野村 彰氏、中村 隆氏、西村正夫氏の5名である。

4. 防災訓練結果報告

今年度もこれまでに多くの自治体等の防災訓練が実施されました。紙面の都合上、全てについては紹介できませんが、主なものを以下に掲載いたします。

4.1 茨城県・日立市総合防災訓練

11月10日(土)日立市みなと町「日立港都市再開発用地敷」をメイン会場として総合防災訓練が開催された。今回は東日本大震災を踏まえて、新たに日立市内の小中学校等の24か所において避難所が開設された。参加人数は、約6000名(主催者側報告)とこれまでにない大きな規模となった。

当ネットワークでは、例年と同様「液状化現象」、「地盤による揺れ方の違い・震度階とマグニチュードの説明」及び「建物における筋交いの効果」等のシミュレータによる模擬実験展示を行い、地震により生じる様々な現象について判りやすい説明を行った。当ブースは、メイン会場隣のホテル「久慈サンピア日立」の中での展示だったために、来場者の流れから少々離れた場所となり例年に比べ来客者数が少なかったと感じられた。

しかし、写真にも掲載したが今回は橋本茨城県知事や、県議会議員の方が当ブースを訪れ液状化現象の模擬実験を試されると共に、会員の説明を聞いていただけことは大変光栄に思う展示であった。

当ブースは、以下の方々のご協力をいただきました。おつかれさまでした。(敬称略、順不同)

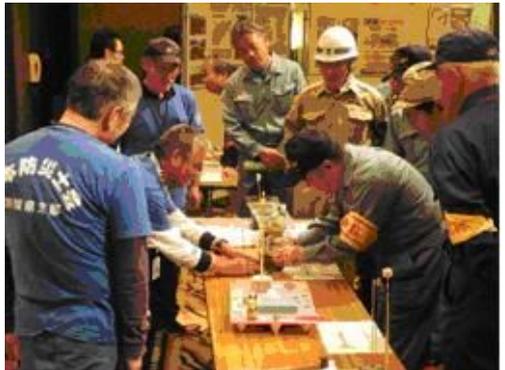
井上亮二、永瀬照男、柴田美智子、関根正彦、高橋 茂。

この他、会場設営準備にあたり鈴木 勇氏にも協力をいただきました。

小学生に説明する関根専務理事



液状化現象模擬実験を橋本県知事に説明する井上ブロッカー



当ブース前で県民と懇談する
橋本県知事と関係者



液状化現象について説明する水瀬副
ブローカー



(写真提供：柴田美智子氏)

4.2 つくば市総合防災訓練

9月30日(日)つくば市役所隣地において市総合防災訓練が行われた。つくば市の防災訓練としては、バケツリレーを今回初めて取り入れたが、当ネットワーク会員が指導を行った。真剣さのなかにも和気あいあいとした雰囲気の中に終了した。参加者は以下のとおり。(敬称略、順不同)

渡邊健一、澤邊 薫、鳥越俊輔、永倉喜代、猪塚光彦、神郡正光、根岸 毅、西村正夫。



閉会式

(写真提供：神郡正光氏)

4.3 結城市総合防災訓練

11月25日(日)結城市鹿窪総合運動公園において、結城市行政自治会主催の総合防災訓練が行われた。当ネットワークとしては昨年度に続き2回目となるバケツリレーによる初期消火訓練の指導の他、展示ブースにおいて、液状化現象、マグニチュードと震度階の違い、建物の筋交いの効果、等を模擬体験により説明した

参加者は、以下のとおり。(敬称略、順不同)

安東正好、斎藤友孝、鳥越俊輔、石井 功、酒井佐代子、田中 寿、高橋義一、神郡正光、永倉喜代、鈴木 勇、藤井 仁、高山芳男、根岸 毅、西村正夫。

液状化現象について消防署員に説明する鈴木理事



防災の効用について体験する小学生



バケツリレーで指導する中車副ブロック長



(写真提供：神郡正光氏)

なお今年度は、上記以外にも古河市並びに土浦市の自主防災組織からの要請、5校にわたる小中学校からの依頼及びその他団体からの依頼を受け訓練に参加し、減災の活動に寄与できたと考えます。

多くの当ネットワーク会員のご協力をいただきました。ありがとうございました。